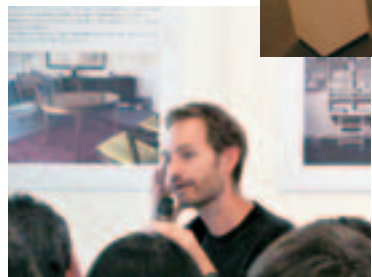


札幌で展覧会と初のアートスクールを開催



6月25日、30日、ギャラリー大通美術館にて「暮らしのデザイン」―東川町の町づくりと営み展―を開催しました。デザインやアートを通して文化を広く発信している東川町の取り組みや、デザインスクールの講師から得た暮らしのヒント、町で暮らしの人々を紹介したパネルや、織田コレクシヨンの椅子、東川関連書籍などを展示。



デザインスクールのワークショップで作成したアウトドアチェア(左下)などを展示

ど、ストーリーのあるモノで自分らしくリラックスできる空間に。美味しい食事を家族や友達とゆっくり食べるのもヒュッゲ。鍋や手巻き寿司など、日本文化にはヒュッゲなものがたくさん。国民幸福度1位のデンマークで大切にされている考え方をヒントに、日常にある「ヒュッゲ」を意識して「ヒュッゲ」を提案しました。3回目のスクー

4か国の料理に舌鼓、国際キッチン

6月23日、カナダ、韓国、中国のCIR(国際交流員)が、各国の料理に触れる「国際キッチン」を開催しました。参加者23名が4グループに分かれ、4か国の特徴的な料理に挑戦。カナダのハニーガーリックウィングス(はちみつ風味手羽先揚げ)、韓国のスンドゥブチゲ(豆腐チゲ)、フランスのニソワーズ(ニース風サラダ)、中国の



麻団(胡麻団子)を作り、国際色豊かな食卓を囲みました。料理だけでなく、スタッフとして来てくれたフルウェーのALIT(外国語指導助手)、参加者として来てくれた台湾、ラトビアの留学生のおかげで、さらに豊かな国際交流の場になりました。参加者からは「甘い手羽先は初めて」「韓国料理はやはり日本人には辛いかも」「アンチョビの食べ方がわかった」など、国際キッチンならではの感想が。美味い! 食事を通して異国文化の理解が深まる「国際キッチン」の開催予定は、ぜひお知らせします。

新しいデザインを生み出すにはーデザインスクールー



6月19日、旭川デザインセンターにて、旭川家具の振興を目的とする第5回旭川デザインウィーク(ADW)との共催で第47回デザインスクールを開催しました。内容は同会場の展示(インスタレーション)を担当したグエナエル・ニコラ氏のスペシャルトーク。「この展示をするにあたり、日本の家具作りについて学び、伝統の上に新しいデザインが生まれるのを見て非常に勉強になった」と導入し、「私のデザインは、まず問題提起から始まる。そこから解決のための様々なプロセスを試みる中で良いアイデアが生まれる」と語り、

ニコラ氏の美しい空間デザインが生まれる背景について「シンプリシティ(純真なものを生み出すためには一度考え方をリセットすることが必要」と講演。「旭川家具はメーカー同士の繋がりが強いことに感動した。良いものを作ろうというプライドも高く、家具だけでなくカタログやロゴデザインなどのグラフィックのレベルの高さにも驚いた。各メーカーが旭川家具としてコラボレーションすることで、より大きなプロジェクトを進められる。旭川から世界へ、新たな旭川家具の発信につながるのでは」と提案しました。

手島圭三郎の絵本原画で紙芝居

7月13日、せんとぴゅあにて手島圭三郎原画紙芝居&クイズを行いました。手島氏は北海道出身の版画家・絵本作家。13冊分の絵本原画が東川町指定文化財となっています。『しまふくろう』



絵本と原画では微妙に色合いが違います

『たむしゅうろのそら』『さどしかのたび』の原画をアクリルケースで保護して紙芝居仕立てにし、「おはなしの会ひびび」が感性豊かに朗読しました。子どもたちはもちろん、大人も聴き入りながら原画を注視。

手島氏の絵本は、日本語以外にも含めてせんとぴゅあⅡ・ほんの森で貸し出ししています。(原画は複製不可) クイズ 第一問:しまふくろうが卵

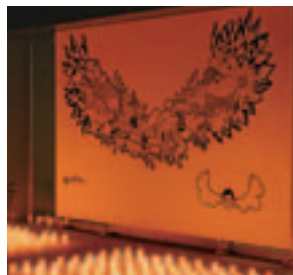
を産んでヒナを育てるための樹洞(じゅどう)を作るのは樹齢何年の木?(①20年②百年③450年)、第2問:なぜタンチョウツルという名前になった?(①丹波地方に多く生息していたから②中国の金魚・丹頂に似ているから③頭の色が赤いから)、第3問:エゾシカの声はどれ?(音声問題なので誌面では出題できません。無念!)

【答え】第一問:②:針葉樹が体の大きいため約百年かかるため。第二問:③:漢字の「丹頂」は丹+赤、頂頭の意味。ちなみに金魚の丹頂は鳥の丹頂に似ているから命名された。

キャンパズルナイトふりつらつた時間を



温かな炎の中でのアコースティックライブ



キンドルに照らされたびゅあウイング

域おし協力隊のドートレットミシーのアコースティックライブに耳を傾けました。19日に完成したヨシシズレー氏のアート作品『びゅあウイング』もロウソクの炎に照らされて普段と違った表情に。集まった人は夢中になって写真を撮影していました。せんとぴゅあでは、今後もみなさんの交流の場となるようなイベントを開催していきます。

新写真スポット「ヨシズレー氏のアート」完成

6月14日から19日にかけて、せんとぴゅあⅡの特設キャンバスにヨシズレー氏がライブペイント(絵を描く過程を見せるパフォーマンスアート。下書きなしで直に描きました)を行い、複合交流施設Ⅱ「人々の交流の場」であるせんとぴゅあに写真映えるスポ

ットが誕生しました。芝生広場側の屋外キャンバスには、絵の前に立つ人に翼が生えたように見える『びゅあウイング』、館内には旭岳や田園風景、ももんがをはじめとしたおなじみの面々に、想像力をかきたてる様々なモチーフが散りばめられたアートが出現。



何を表現しているのか想像してみてください。

し協力隊だった花田裕子さんの紹介で、柔軟でやさしい作風であることや、モノクロの作品が見る側の想像力を掻き立てる点などが決め手となり、今回の企画が実現しました。